

## 論文内容の要旨

報告番号		氏名	九鬼 一隆
Effects of contact with COVID-19 patients on the mental health of workers in a psychiatric hospital  (和訳) COVID-19患者との接触が精神科病院職員に与えた影響			

### 論文内容の要旨

COVID-19 の治療にあたる医療従事者において、不安症状や抑うつ症状を呈するリスクが高いことが報告されている。一方で、COVID-19 の院内感染が発生した精神科病院における職員のメンタルヘルスへの影響について検討を行った研究はない。そこで、本研究では、精神科病院である当院で発生した COVID-19 の院内感染の対処後に職員のメンタルヘルスが受ける影響について検討を行った。また、不安症状及び抑うつ症状を評価し、これらの症状に影響を与える因子について検討を行った。

対象は、当院に勤務する多職種で構成される全職員 468 名とした。対象者全例に、性別、年齢、COVID-19 患者との濃厚接触の有無、同居者の存在、及び院内感染の発生時における病院の指示(自宅待機、COVID-19 患者が発生した病棟への応援業務、他の部署への応援業務、仕事の変更なし)について、著者らが作成した質問紙票を用いて対象者の背景情報として収集を行った。また、不安症状を GAD-7(Generalized Anxiety Disorder-7)日本語版、抑うつ症状を PHQ-9(Patient Health Questionnaire-9)日本語版を用いて評価した。そして、質問紙票及び評価紙票にて欠損情報があったものを除いた 426 名から得られたデータから、対象者の背景情報別に各症状のスコアを比較し、不安症状や抑うつ症状に影響を与える潜在的な危険因子について検討を行った。なお、本研究は七山病院・倫理委員会の承認を得ている。

その結果、COVID-19 患者と濃厚接触したため自宅待機を指示された職員は、COVID-19 患者と濃厚接触していない職員よりも GAD-7 と PHQ-9 のスコアが有意に高かった。また、同居者がいる職員は、同居者がいない職員と比較し GAD-7 と PHQ-9 のスコアが有意に高かった。さらに、重回帰分析の結果、COVID-19 患者と濃厚接触となること、女性であることは、不安と抑うつを増加させる因子であった。また、同居者の存在は不安症状のみを増加させる因子であった。COVID-19 患者と濃厚接触していない職員において、病院からの指示は、不安症状や抑うつ症状に影響を与えなかった。

同居者の有無と不安及び抑うつ症状の程度に関連がみられたが、この結果には、偏見や差別にさらされることへの不安や家族へ感染させてしまうことへの恐怖が原因となっている可能性が考えられた。また、女性の職員は、不安症状と抑うつ症状が強くなる因子である可能性が示唆され、過去の報告と一致していた。

これらのことから、COVID-19 の院内感染が発生した精神科病院において、COVID-19 患者と濃厚接触者とみなされた職員、女性、同居者を有する職員において、よりメンタルヘルスケアを必要としていることが示唆された。